

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	5-(4)-イ	能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進	施策	① 科学技術・スポーツ・文化芸術人材の育成
			施策の小項目名	○理数教育の充実
主な取組	科学技術への興味関心を高める取組			
対応する主な課題	①本県は科学技術を中心とした知的・産業クラスターの形成を目指しており、県内人材の科学技術水準の向上が求められているが、県内をはじめ全国的にも理科離れが顕著であることから、幼い頃からの体系的な理数教育を展開し、子どもたちの科学に対する興味関心を高めるほか、優れた若手研究者等への支援をはじめとする専門性を有する人材の育成を図る必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
子供達の科学技術に対する興味・関心を高め、科学技術・産業振興を担う人材を育成するため、以下の取組を行う。 (1) 関係機関との連携ネットワーク形成及びコーディネート (2) 出前講座等の実施 (3) 科学に関する課外活動等への支援 (4) 子供達のキャリア形成に向けた支援		10回/年 出前講座 等開催数				
実施主体	県、事業者					
担当部課【連絡先】	企画部科学技術振興課 【098-866-2560】					
		研究機関や企業、児童館等との連携による科学教育実施の支援				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名	子供科学人材育成事業						R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画
	主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	当初予算額	主な財源
一括交付金 (ソフト)	委託	37,580	38,818	40,979	-	-	-	-	OR元年度： - OR2年度： -
予算事業名	子供科学技術人材育成事業						R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画
	主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	当初予算額	主な財源
一括交付金 (ソフト)	委託	-	-	-	46,051	46,033	41,855	一括交付金 (ソフト)	OR元年度： 大学等をはじめとする県内研究機関や児童館等の関係機関との連携により、子供の成長に応じた科学教育プログラムを実施した。 OR2年度： 大学等をはじめとする県内研究機関や児童館等の関係機関との連携により、子供の成長に応じた科学教育プログラムを実施する。

様式1(主な取組)

活動指標名	出前講座等開催数				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	49回	65回	87回	70回	80回	10回	100.0%	46,033	順調	<p>地域や大学・研究機関等との連携により、児童を対象とした科学教室の自主開催支援や中学生及び高校生を対象とした科学教育プログラムを実施した。(児童76回、中学生3回、高校生1回)</p> <p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>出前講座等を受講した生徒にアンケート調査を実施したところ、理科や科学が好きになった、将来科学系の進路に進みたいとの意見があるなど、子供達の科学に対する興味関心を高めることができた。</p> <p>また、活動指標となっている出前講座の開催回数の実績は80回となっており、計画値を大幅に上回っていることから順調と判定した。</p>
活動指標名	—				R元年度					
実績値	—	—	—	—	—	—	—			
活動指標名	—				R元年度					
実績値	—	—	—	—	—	—	—			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和元年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> ・科学に興味・関心をもった生徒が、更に知識や関心を高められるよう、成長・進級に応じて、科学や実践的科学体験等を学べるように、県内の大学等と連携した科学教育プログラムを実施するとともに科学教室の自主開催に向けた講師の育成に向けて支援する。 ・離島の子供達を対象とした科学教育プログラムの確立に向けて、地元自治体や学校との意見交換や大学等の関係機関との連携を図りながら、その手法について検討を行っていく。 						<ul style="list-style-type: none"> ・県内大学や沖縄高専との連携により、科学技術や産業振興に関する実践的な科学体験プログラムを企画し、中学生は、ITロボット、エネルギー、環境の3講座、高校生は環境動物科学、脳情報システム科学、遺伝子科学、IoT情報科学、自然物理化学の5講座を実施した。また、児童を対象としたプロジェクトでは、科学教室自主開催に向けた研修会等を実施した。 ・これまで児童を対象とした科学教室等の開催が無かった宮古島地域において、地域の児童館等を対象とした説明会を行うことにより、科学イベントの開催により、子供達の科学に対する興味・関心を高めるとともに、児童館職員等を対象とした研修会の実施により、地域での自主開催に向けた取組の支援を行った。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・ 子供達の科学に対する興味・関心を高め、理系進学率等をさらに向上させるためには、科学技術に関するキャリアデザイン形成に繋がる取組及び理系研究者にとって必要な能力を養成するプログラムの開発及び実施が求められる。

○外部環境の変化

・ 沖縄県本島では、各地域自治体や大学、企業等が主催する科学イベント等が増えつつあるのに対し、離島地域では未だ、子供達が科学技術に触れる機会が少ない状況である。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・ これまでに実施している科学技術に関するキャリアデザイン形成に繋がる取組をさらに強化するとともに、理系研究者にとって必要な能力 (科学的な思考力や判断力、コミュニケーション能力、説明能力等) を養成するプログラム開発および実施を行う。
・ 離島地域を含む沖縄県内の子供達が科学に触れる機会を増やすため、引き続き、科学教室等の講師育成及び開催支援を実施し、地域の主体的かつ継続的な科学教室等の開催を促す必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・ 大学や企業等と連携し、課題解決に向けた意見交換会や討論会等の実施により、科学に対する理解を深めるとともに理系研究者にとって必要な能力 (科学的な思考力や判断力、コミュニケーション能力、説明能力等) の養成を目的とした取組を強化する。
・ 離島の子供達を対象とした科学教育プログラムの確立を目指し、地域の主体的かつ継続的な科学教室等の自主開催に向けた支援を強化する。